



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/28 (月)	+ 400	▲ 5,000	▲ 4,600	国庫短期証券発行償還 (3M) 流動性供給	国債補完供給 社債等買入 1,200 ▲100		日：自民党両院議員懇談会
7/29 (火)	+ 1,000	+ 3,000	+ 4,000				米：FOMC (1日目) ：消費者信頼感指数 (7月)
7/30 (水)	トン	+ 4,000	+ 4,000				日：金融政策決定会合 (1日目) 米：FOMC (2日目) ：ADP雇用統計 (7月) ：GDP (2Q) 欧：ユーロ圏GDP (2Q)
7/31 (木)	▲ 200	▲ 9,000	▲ 9,200				日：金融政策決定会合 (2日目) 米：新規失業保険申請件数 (7月26日終了週)
8/1 (金)	トン	▲ 23,000	▲ 23,000	国債発行償還 (2年)			米：雇用統計 (7月) ：ISM製造業景況指数 (7月) ：ミシガン大学消費者マインド指数 (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2兆1,100億円増加の523兆7,600億円から始まった。その後、国債発行や国債買入オペ等の要因により増減し、25日は524兆3,300億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.479%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.478%~0.56%のレンジ、1M~3M物0.53%~0.70%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、28日に自民党両院議員懇談会、30・31日に日銀金融政策決定会合。海外では29・30日に米FOMC、1日に米雇用統計 (7月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.53 ~ 0.65
2M	0.54 ~ 0.70
3M	0.58 ~ 0.70
6M	0.65 ~ 0.85

<レポ>

足許GCは週を通して+0.485%~+0.495%の狭いレンジで取引された。短国3Mの発行があった25日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470~474回債、5年155~178回債、10年355~371、378~379回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約9,515億円で、週間償還額の1兆155億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆6,776億円から、7月24日時点で25兆5,520億円で減少した。発行市場は、卸売業、小売業、不動産、鉄鋼、鉱業で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では政策金利に近い0.50%前半半での出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%近辺での出合いが見られた。

来週の償還額は2兆9,000億円となっている。発行市場は、月末に企業の調達ニーズが高まり、活況なマーケットが見込まれる。日米両政府が関税交渉で合意したこと、日本銀行の利上げ判断を後押しする材料であるため、9月・10月の政策決定会合を跨ぐ長い期間での取引においては、発行金利の上昇を見極める展開が予想される。

<TDB>

25日の3M (1321回債) の入札は、最高落札利回り0.4396% (前回債0.4079%)、平均落札利回り0.4268% (前回債0.4006%) となった。来週の入札は8月1日に3Mが予定されている。